



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 9

平成28年 9月14日発行 発行責任者 校長 野口 泰秀

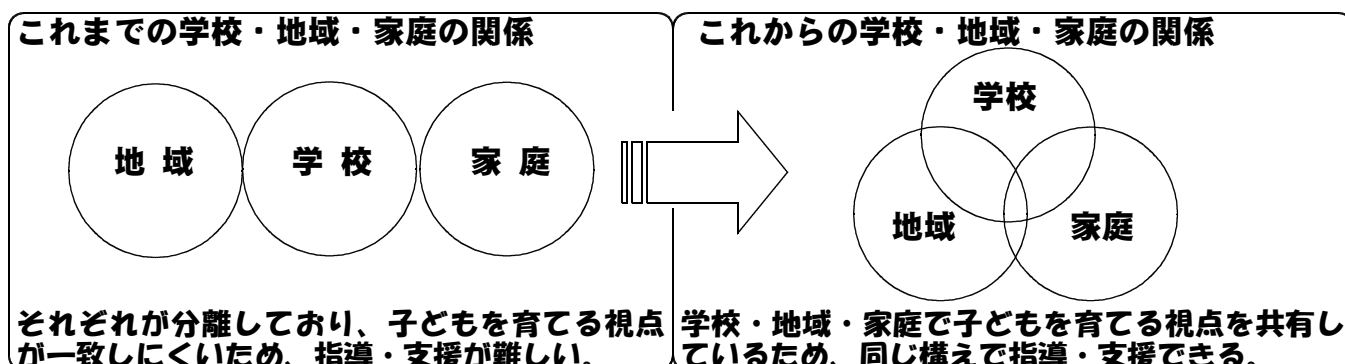
学校・地域・家庭が一体となって子どもを育てる

校長 野口 泰秀

9月10日・11日は西春別神社祭が行われました。今年はたくさんの小学生が参加させていただきました。このような地域での体験活動としてのお祭りは、地域社会が学校や家庭と連携し、子どもたちに次のような能力を育てられるとされています。

- ①地域の人々に支えられていることを実感し、西春別で生活する一人としての自覚や郷土愛が育ちます。
- ②地域の人々との活動や交流を繰り返すことで、社会性やコミュニケーション能力が育ちます。

さて、昨今、学校が教育活動における目的を十分に達成するためには、家庭や地域のみなさんとともに子どもたちを育てていくという視点にたち、学校内外の活動を通じて子どもたちの生活の充実と活性化を図ることが大切だと言われています。しかし、実態としては、学校・地域・家庭はそれぞれ分離しています。それは、それぞれに役割があるからです。しかし、その結果、「学校が悪い。」「それは家庭で行うべき。」「地域がもっと・・・」等に終始してしまうことも少なくありません。



過去においては、学校・地域・家庭が分離していても「子どもは、こうあるべきだ。」という共通の価値観がありました。たとえば、私が子どもの頃には、先生にも、親にも、地域のおじさんやおばさんにも悪いことをすると、同じように叱られていました。そのため分離していても問題はなかったのです。しかし、現在は、価値観が多様化しているため、それぞれが分離していると子どもを育てていくための指導や支援にズレが生じ、難しい状況になります。そのため、これからは、学校・地域・家庭が視点を共有化し、地域総ぐるみで子どもを育てることが大切になると考えております。これからもご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2学期に頑張りたいこと②・・・「着がまえ」

「かまえ」には、準備を整えること、という意味があります。

2学期は、準備を整えて学校生活に望み、正しい理解や良い判断ができる子に育てたいと思っています。

さて、「着がまえ」とは、身につける物を準備することです。たとえば、体育がある時は体育帽子を身につけ、動きやすい服装で登校します。また、9月は気温の日較差が大きいことから、気温に応じた衣服の調節をします。このことは、危険防止や健康な生活をする上で必要な準備です。

また、脱いだ履き物をそろえておくことや寝るときに衣服をたたんで枕元におくことも、「いざ、・・・」という時のための「着がまえ」のひとつです。西春別では、お子さんに「着がまえ」をしっかり教えているお家もありますが、最近の統計では、このようなことを教える家庭が減ってきているようです。